

瀧口修造 宮脇愛子 ca.1960

アンドレ・シェレール・プライベート・コレクションを中心に



宮脇愛子 作品8 1958-59年

この度、ART OFFICE OZASA では「瀧口修造 宮脇愛子 ca.1960」展を開催いたします。

戦前・戦後を通してあらゆる表現分野の多くの作家と交流した詩人で美術評論家の瀧口修造（1903-1979）。シュール・レアリスム芸術を基軸に、日本における前衛芸術の精神的・理論的支柱として活発な評論活動を展開します。読売アンデパンダン（1951）、実験工房（1951）、タケミヤ画廊での企画など常に現代美術に刺激を与え続けましたが、1960年以降、国際展の審査、新聞や雑誌など職業的に書くことに矛盾を感じ、1963年にはそれらいっさいをやめます。その一方で1960年以降、南天子画廊での初個展（1960）をはじめ、数多くのデッサンやデカルコマニー、バーントドローイングなど造形作品を残しており、これらは近年、瀧口独自の表現として益々注目されています。

宮脇愛子（1921-2014）もまた瀧口と親密に交遊した作家でした。1953年、義理の姉であった神谷伸子を通じて阿部展也、斎藤義重に師事します。養清堂画廊での初個展（1958）ののち、瀧口の勧めでイタリアミラノへ移り住み、フォンタナ、カステラーニ、マンゾーニ、そしてパリのマンレイなど多くの作家と交流し、本格的に作家活動を始めます。一時帰国した1962年1月には東京画廊で個展を開催し、その時に会ったパリの画商アンドレ・シェレールと契約し、1年間パリに滞在し作品制作をします。そして同年10月には、アンドレ・シェレール画廊にて個展を開催し、これを契機にニューヨーク、ワルシャワを始め世界各地の主要な美術館での発表が始まります。

ほぼ時を同じくして鬼籍に入った宮脇愛子（2014年没）とアンドレ・シェレール（2015年没）。この度、ART OFFICE OZASA は、アンドレ・シェレールのプライベートコレクションからパリ・モンパルナスのアトリエで制作された宮脇愛子の初期の重要な作品の里帰りを実現することができました。

これを機会に初公開作品を含め1958年～1962年の宮脇愛子作品6点、瀧口修造の1960年以降の未発表作品10点を併せて展示いたします。またプライベートコレクションから宮脇愛子旧蔵の瀧口修造作品4点も併せて展示いたします。

具体美術、もの派をはじめ、世界から熱い視線を集める戦後日本美術。その中でも1960年代の草間彌生、田中敦子など女性陣の活躍は一層際立った輝きを放っています。宮脇愛子もまた1967年にはグッゲンハイム美術館に作品買上となり、世界各所の美術館に収蔵されています。しかし、まだまだ十分な評価がされているとは言い難く、本展示が再評価の一端となることを願っております。

今日まで目にする機会の少なかった宮脇愛子の1960年初頭、パリでの制作をご覧いただける貴重な機会となります。また造本作家グループ＜Les fragments de M＞による、瀧口修造のルリユール（工芸としても製本）作品もあわせてご覧いただけます。

ぜひご高覧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

ART OFFICE OZASA

ART OFFICE OZASA INC.

〒602-8216 京都市上京区堅門前町414 西陣産業会館207（堀川今出川南西 西陣織会館 西館）
207 Nishijin Textile Center West.414 Tatemonzen-cho, Kamigyo-ku,Kyoto 6028216 Japan

【展覧会概要】

- <名称> 瀧口修造 宮脇愛子 ca.1960
<会期> 2018年6月2日(土)～2018年6月30日(土)
<会場> ART OFFICE OZASA
京都市上京区堅門前町414 西陣産業会館207(西陣織会館西館)
<時間> 火曜日～土曜日 午前11時～午後6時 日月祝祭休み
初日、オープニングは開催いたしません、お飲み物を用意してお待ちしております

【主な展示作品】

- 瀧口修造 1960年以降の未発表作品を中心に10点
宮脇愛子旧蔵のプライベートコレクションから4点
「デカルコマニー」「バーントドロ잉」「水彩」など
- 宮脇愛子 アンドレ・シェレールのプライベートコレクションを中心に1958年～1962年の絵画6点
「作品8」 1958-59年
「作品」 1961年
「作品」 1962年 *アンドレ・シェレール・コレクション
「作品3-3-62」 1962年 *アンドレ・シェレール・コレクション
「作品3-5-62」 1962年 *アンドレ・シェレール・コレクション
「作品3-6-62」 1962年 *アンドレ・シェレール・コレクション
資料展示のみ「作品1」 1961年 *アンドレ・シェレール・コレクション

【ルリユール展示】

造本作家グループ Les fragments de M

瀧口修造関連書籍「自由な手・抄」「小球子譚」「瀧口修造の詩的実験・1927-1937」「余白に書く」「三夢三話」など

【参考展示作品】

阿部展也 「アブデルワラ寺院」 ca.1953
ルーチョ・フォンタナ 「無題」 1964

【協力】

土渕信彦・ときの忘れもの・松田昭一(宮脇愛子アトリエ)

【問い合わせ】

株式会社 ART OFFICE OZASA
〒602-8216 京都市上京区堅門前町414 西陣産業会館207
電話: 075-417-4041
メール: mail@artozasa.com
HP: www.artozasa.com

【宮脇愛子 略歴】

- 1929 年 東京に生まれる
- 1952 年 日本女子大学文学部史学科卒業
- 1953 年 阿部展也、斎藤義重に師事する
- 1957 年 サンタモニカ・シティ・カレッジおよびカリフォルニア大学・ロサンゼルス校に学ぶ
- 1959 年 ミラノ、パリ、ニューヨークに滞在
- 1966 年 帰国
- 1967 年 《Work》でグッゲンハイム国際彫刻展・買上げ賞受賞
- 1977 年 第7回現代日本彫刻展で《MEGU-1977》が北九州市立美術館賞を受賞
- 1981 年 第2回ヘンリー・ムア大賞展（彫刻の森美術館）で《UTSUROHI》が
エミリオ・グレコ特別優秀賞を受賞
- 1982 年 第8回神戸須磨離宮公園現代彫刻展で《UTSUROHI》が第1回土方定一賞を受賞
- 1986 年 第2回東京野外現代彫刻展（都立砧公園）で《UTSUROHI》が東京都知事賞を受賞
- 1992 年 モンジュイック・オリンピック広場（バルセロナ）への《UTSUROHI》設置により、
カタルーニャ芸術評論家賞を受賞
- 2000 年 第7回日本芸術振興賞受賞
- 2003 年 フランス政府より芸術文化勲章・オフィシエを受賞
- 2014 年 膵臓癌のため84歳で死去

【主なコレクション】

- 日本 東京国立近代美術館 東京都現代美術館 国立国際美術館 神奈川県立近代美術館
宮城県美術館 原美術館 静岡県立美術館 芸術の森美術館 群馬県立美術館
奈義町現代美術館
- フランス ピエール・ブーレーズのための音楽広場（リヨン）
ラ・デファンス（パリ）
- イタリア ファットレ・チェレ
- ポーランド ウッジ美術館
クラコウ・マンガセンター日本庭園
- スペイン モンジュイック・オリンピック広場（バルセロナ）
ミロ美術館
- アメリカ グッゲンハイム美術館（ニューヨーク）
チェイス・マンハッタン銀行（ニューヨーク）
プラザタワー広場（コスタ・メッサ）
- ベルギー ヴェランヌマン財団
- カタール アル・ワプラ・ファーム（ドーハ）
- ドイツ 鉄鋼労働組合ビル（フランクフルト）
- 台湾 花蓮空港
南港駅（台北）

【瀧口修造 略歴】

- 1903 年 富山県に生まれる。
- 1923 年 慶應義塾大学予科に入学。
- 1926 年 富永太郎・堀辰雄らの同人誌「山繭」に参加。西脇順三郎教授の教えを受ける。
- 1928 年 シュルレアリスム機関誌「衣裳の太陽」創刊。
- 1931 年 慶應義塾大学英文科卒業。
- 1938 年 「近代芸術」を出版し、1941 年前衛芸術弾圧により検挙され約 8 か月拘留される。
- 1947 年 「日本アヴァンギャルド美術家クラブ」結成に参加。
- 1951 年 「タケミヤ画廊」企画に無報酬で参画。「実験工房」発足。
- 1953 年 国際アートクラブ結成に参画。
- 1958 年 ヴェネチア・ビエンナーレの日本代表及び審査員として渡欧。
- 1959 年 美術評論家連盟会長に就任（1962 年まで）
- 1960 年 初個展「私の画帖から」（南天子画廊）
- 1967 年 『詩的実験 1927-1939』刊行。
- 1969 年 詩画集『手づくり謠』ミロと共作。
- 1973 年 フィラデルフィア美術館デュシャン大回顧展に出席。
- 1979 年 肺水腫のため 76 歳で死去

【アンドレ・シェレール Andre Schoeller】

パリ、サンジェルマンデブレのアートマーケット、オークションハウス Drouot で数々の大きな売上を記録した伝説的な人物。

プリミティヴアート、近代美術、戦後の現代美術、特に抽象的な芸術を専門とするギャラリスト、アートディーラー。

プロヴァンスの邸宅で 86 歳で 2015 年 12 月 1 日に死去。